

件名	無形民俗文化財の指定及び保存団体の認定について
提案理由等	<p>栃木県文化財保護審議会から指定等が適である旨の答申のあった文化財について、栃木県指定無形民俗文化財に指定し、当該文化財の保存団体を認定するものである。</p>

無形民俗文化財の指定及び保存団体の認定について

平成29年7月19日付けをもって、栃木県文化財保護審議会から指定等が適である旨の答申のあった下記の文化財について、栃木県文化財保護条例（昭和38年栃木県条例第20号）第26条第1項の規定により、栃木県指定無形民俗文化財に指定し、同条第2項の規定により保存団体を認定する。

記

名 称	間々田のジャガマイタ
種 別	無形民俗文化財
所 在 地	小山市間々田
保 存 団 体	小山市間々田811-3 間々田のじゃがまた保存会 会長 五十畑 正一

平成29年8月1日

栃 木 県 教 育 委 員 会

平成 29 年 7 月 19 日

栃木県教育委員会 様

栃木県文化財保護審議会

無形民俗文化財の指定について（答申）

平成 29 年 2 月 7 日をもって諮問を受けた無形民俗文化財の指定等の適否について、当審議会は慎重に審議した結果、下記のとおり答申します。

記

名 称	間々田のジャガマイタ
種 別	無形民俗文化財
所 在 地	小山市間々田
保 存 団 体	小山市間々田 811-3 間々田のじゃがまいた保存会 会長 五十畑 正一
指定等の適否	適（理由は別紙調書参照）

調 書	
種 別	無形民俗文化財
名 称	間々田のジャガマイタ
所 在 地	小山市間々田
保存団体の住所及び名称	(住所) 小山市間々田 811-3 (名称) 間々田のじゃがまた保存会 会長 五十畑 正一
内 容 及 び 由 来	(内容) 5月5日(元は旧暦4月8日)に、子供たちが竹や藁、シダなどで作った長さ約15メートルの蛇体を担いで地区内を練り歩き、悪疫退散・五穀豊穰などを祈願する民俗行事。 (由来) 文書記録がないため不詳。ただ行事の由来を語る名主宅や龍昌寺の伝承などから、江戸時代後期には卯月八日の習俗として行われていたものと考えられる。
指 定 の 適 否	(適) 不適
現 況 及 び 所 見	
<p>呼称・祭日・概要 間々田のジャガマイタは、旧暦4月8日、現在は5月5日の子供の日</p> <p>に、小山市間々田地区で行われている祭礼行事で、別名「蛇(じゃ)祭り」とも呼ばれる。祭日</p> <p>は旧暦4月8日であったが、1970年頃を境に新暦の5月5日の子供の日に変更された。</p> <p>間々田1～6丁目と長者町の計7つの町会において、中学生までの子供が中心となって、竹や</p> <p>稲藁を使って長さ約15m、直径約30cmの大蛇を作る。「八大龍王」と書かれた幟を先頭</p> <p>に、まず間々田の総鎮守である間々田八幡宮に集合して祈禱を受けた後、これを担いで集落内</p> <p>を練り歩いて悪疫退散・五穀豊饒を願う。</p> <p>由来について 祭りに関する地元の資料はほとんど残されていないが、地元では八大龍王信</p> <p>仰がこの地に伝わり、雨乞い・五穀豊穰・疫病退散を祈願するために、龍を模した藁蛇を担い</p> <p>で廻るようになったという説と、龍昌寺(曹洞宗。慶長11年〈1606〉創建)の住職、法牛東</p> <p>林(天保3年〈1832〉没)がこの地域を襲った大旱魃と疫病による民衆の困苦を目の当たりに</p> <p>して、雨乞いと疫病除けのためにこの祭りを始めたという説と、この二つが語り伝えられてい</p> <p>る。</p> <p>担い手の変遷 祭りは江戸時代後期には行われていたといわれているが、当時は旧間々田の</p> <p>名主であった上原家(現間々田3丁目)を境に、南側の下坪と北側の上坪で、それぞれ1匹ず</p>	

つ蛇を作り、若衆が激しく担ぎまわし、最後に下坪は村境の榎（「逢いの榎」）の下に、上坪もやはり「松原」と呼ばれる村境に捨てたという。その後、上（現4・5丁目）・中（現3丁目）・下（現1・2丁目）の3つの区分で蛇が作られるようになり、さらに明治になると1～5丁目の区分になってそれぞれ1匹ずつ蛇が作られるようになった。戦後になると、現在のよに7町会（6丁目と長者町が加わる）に範囲が広がり、中学生までの子供が中心となり、大人が子供たちをサポートするかたちで祭りが行われている。

蛇体作り 蛇体作りは4月末から土・日、祝日を利用して各地区の公民館などで行われている。事前に中学生・実行委員・育成会役員らが集まって作業日程や祭り当日の役割などを決定し、これに小学生やその父兄たちが加わって祭りの前日までに蛇体作りが行われる。割り竹を芯にして稲藁を縄で巻き付け、直径約30cmの胴体を作り、これに割り竹で編んだ頭部を付ける。地区により異なるが、これに金紙や銀紙などで作った目や鼻、あわび貝の耳、赤く塗ったうちわの舌、木のザクマタの角などをつけて完成させる。尾には縄でシリケン（尻剣）と呼ばれる木製の剣形の造形物を付ける。尻剣はもとは墓場に立てられている卒搭婆が用いられていた。祭りの前日ないしは当日の早朝に刈り取ってきたシダを「コケラ巻き」といって蛇体に巻きつけて完成させる。

神社への蛇寄せ 祭りは、鎮守である間々田八幡宮の境内に各町内の蛇体が集合する「蛇よせ」から始まる。ここで神官から祈禱を受けた蛇は、口に御神酒が注がれ、境内社である八龍神社に参ってから本殿を一周し、境内にある池に口を入れて水を飲ませるまねをする。

町内の家々を回る その後各町内に戻り、「ジャガマイタ、ジャガマイタ」の掛け声とともに町内を練り歩く。家々では、蛇の頭を玄関に入れ、お神酒を口に入れ、厄災を払う。昭和40年頃までは母屋の表から裏まで蛇が通りぬける「家ぬけ」が行われたり、名主の上原家の土蔵を3周するのが習いであったというが、現在では行われていない。

昭和初期の調査報告との比較 瀬沼寛二「下野間々田町の『蛇がまいた』」（『民俗藝術』3巻2号、1930年）では、昭和初期の祭りの様子について短い報告がなされており、そこでは次の4点が注目される。①名主の上原家の土蔵に棲む大蛇が、毎年4月8日に出て、土蔵の周りを3回まわるといふ伝承があった。②7日夜、各町内の家々では、母屋の軒の両側にウツギと藤蔓とを2本ずつ束ねたものを挿すほか、出口・入口・納屋・井戸の屋根の軒などにも挿す。8日に子供たちが家々を回ってこれをもらい集め蛇体を作る。③夕刻、子供たちが蛇を担いで「蛇がまいた、蛇がまいた、四月八日の蛇がまいた」と唱えながら家々を廻って銭をもら

う。夜は若衆たちが激しく蛇を担いで評判のよくない家を荒したり、隣の町会の若衆と競り合いや喧嘩もあった。④間々田八幡宮への蛇寄せについては記述がない。

卯月八日の行事としてのジャガマイタ 卯月八日には、日本各地では寺で灌仏会が行われる例も多いが、民間においては、花立てや山参り、死者供養など様々な習俗が伝えられている。そのなかで、間々田の卯月八日のジャガマイタの行事は、第一に、各家の田植えが始まる前にウツギや藤蔓で厄災を祓え清めて、家々の厄を託したウツギと藤蔓を集めて蛇を作り、それで集落内を祓え清めるという点が特徴的である。卯月八日の祓え清めが家ごとの行事であるだけでなく、集落としての行事ともなっているのである。現在では、家ごとの卯月八日の行事は伝承力が弱くなっているが、集落としての伝承力はまだ強いといえる。

第二に、本行事について民俗学の伝承分析的観点からみると、伝承の中の消滅した部分（各家でウツギや藤蔓をさす、名主の土蔵を3回まわる、若衆の練り回しなど）と、新たに加わった部分（神社への蛇寄と祈禱など）、さらに祭日の変更に伴い、「四月八日のジャガマイタ」と卯月八日が意識されていたかけ声から「ジャガマイタ」だけに省略されている点などが注目される。そして、シリケンを卒塔婆で作るという伝承については、かつて柳田國男が『先祖の話』で指摘した卯月八日の行事の中に死者供養の意味があったということを伝えている貴重な事例として注目される。間々田のジャガマイタの学術的な価値は、卯月八日の祓え清めと死者供養という2つの意味をよく伝えてきているという点にある。

なお、平成23年（2011）に「間々田のじゃがまた保存会」（代表五十畑正一）が組織され、今後の継承の母体となっている。また、本行事がよりいっそうの地域の活性化と子供たちを通じた住民の交流の場として有効であることが、地元の人々に認識されていることも重要である。

以上のことから、間々田のジャガマイタは、災厄の侵入を防ごうとする信仰を背景に、周辺農家の五穀豊穡を願う雨乞いの習俗が習合した行事と考えられる。また子ども組がこの行事を執行していたという伝統を残しつつ、しかもこのような大蛇を担ぎ出して祭りを行う事例は県内において他になく貴重な行事であるといえる。なお、地域住民が総力をあげてこの執行に取り組んでいることも特筆され、地域の絆意識を高めるための大切な行事となっていると考えられ、栃木県の無形民俗文化財として指定するに相応しいものと認められる。

〈参考文献〉

小山市教育委員会・小山市立博物館 『選択無形民俗文化財 間々田のジャガマイタ』 2014
年、小山市史編纂委員会編『小山市史』民俗編、1978年

調 査 年 月 日

平成 29 年 5 月 3 日・5 日

調 査 委 員 氏 名

関沢まゆみ 金井忠夫 小川 聖



蛇体の芯となる真竹を割る



割った真竹を2本繋ぐ



割った真竹を回転させ縄を巻く



藁を巻き付ける



頭部に藁を巻き太くする



蛇頭を取付ける



シリケン



蛇体を雨で濡らさないよう保管



シダの採集



コケラ巻をする中学生男子



蛇頭にシダを巻く



御神酒を注いで出発式



浄光院を出発する蛇



間々田八幡宮本殿前に集まった蛇（蛇寄せ）



神官によるお祓い



蛇の口に御神酒を注ぐ



八龍神社に参る蛇



本殿を1周し水のみに向かう蛇



境内の池に口を入れての水のみ



池の中を駆け回る蛇



町内を練り歩く蛇



玄関に頭を差し入れて厄祓い



老人ホームを慰問



休憩所での振舞い



旧名主宅の門をくぐる蛇



門に下げた藤の花と菖蒲



賽銭集め



蛇頭に御神酒を注ぐ



間々田小学校での蛇もみ (1～3丁目)



チェーンソーで蛇を分割